

zxjafont パッケージ (v0.3)

八登崇之 (Takayuki YATO; aka. “ZR”)

2015/05/08

1 概要

X_qLaTeX + fontspec でのフォントファミリ名を直接指定する方式は「好きなフォントを指定する」という点では、pLaTeX よりも格段に使い易いが、日本語を扱うためには必ず何らかの設定を行う必要があり、これが煩わしく感じられる場合もある。本パッケージでは、pLaTeX において一般的に行われている設定を予め用意しておいて、簡単に呼び出せるようにしている。

■前提フォーマット X_qLaTeX。

■依存パッケージ

- fontspec パッケージ

2 使い方

以下のようにパッケージを読み込むだけである。(ユーザ命令・環境はない。)

```
\usepackage[⟨メイン設定⟩,⟨サブ設定⟩,⟨他オプション⟩]{zxjafont}
```

⟨メイン設定⟩は1つだけ指定できるが、⟨サブ設定⟩と⟨他オプション⟩は任意個数指定可能である。もしfontspecが未読込の場合は自動的に読み込む。X_qLaTeXには和文と欧文の元来の区別がないので、このパッケージで指定するフォントが全ての文字に通用する。ただし、zxjatypeパッケージでは和文と欧文を区別するので、それと併用の場合は和文のみにフォント設定が適用される。

2.1 メイン設定

総称ファミリの設定 (fontspec の `\setmainfont`、`\setsansfont`、`\setmonofont`) を行うもの。

※「メイン設定」は pxchfon パッケージにおける「プリセット設定」をそのまま (ただし明朝・ゴシック 2 ウェイトに縮減して) 引き継いでいる。設定内容の詳細については、pxchfon の説明書を参照してほしい。

■単ウェイト用の設定 明朝・ゴシック各々 1 ウェイトのみを用いる設定。セリフ (`\rmfamily`) に明朝、サンセリフ (`\sffamily`) と等幅 (`\ttfamily`) にゴシックを割り当てる。さらに、pLaTeX の習慣に合わせて、セリフの太字 (`\bfseries`) もゴシックにする。(これは必ずしも好ましい設定ではないことに注意。)

- ms : MS フォント。
- ipa : IPA フォント。
- ipaex : IPAex フォント。

※ Xe_{La}TeX は「フォント非埋込の PDF 生成」に対応していない。

■多ウエイト用の設定 明朝・ゴシック各々 2 ウエイトを用いる設定。^{*1} セリフに明朝、サンセリフと等幅にゴシックを割り当て、各々について通常 (`\mdseries`) と太字 (`\bfseries`) を個別に設定する。

- ms-hg : MS フォント + HG フォント。
※ HG フォント = Microsoft Office 付属の日本語フォント
- ipa-hg : IPA フォント + HG フォント。
- ipaex-hg : IPAex フォント + HG フォント。
- moga : Moga フォント (2004JIS 字形)。
※ MogaEx 系統が用いられる。
- moga-90 : Moga フォント (90 / 2000JIS 字形)。
※ MogaEx90 系統が用いられる。
- kozuka-pro : 小塚フォント (Pro 版)。
- kozuka-pr6 : 小塚フォント (Pr6 版)。
- kozuka-pr6n : 小塚フォント (Pr6n 版)。
- hiragino-pro : ヒラギノフォント基本 6 書体セット (Pro/Std 版)。
- morisawa-pro : モリサワフォント基本 7 書体 (Pro 版)。
- hiragino-pron : ヒラギノフォント基本 6 書体セット (ProN/StdN 版)。
- morisawa-pr6n : モリサワフォント基本 7 書体 (Pr6N 版)。
- yu-win : 游書体 (Windows 搭載版)。
- yu-osx : 游書体 (Mac OS X 搭載版)。

■旧版の設定 v0.2a 版以前で用意されていたメイン設定。現在の版でも使用は可能であるが非推奨である。

- kozuka4 : 小塚フォント (Pro 版) の単ウエイト使用。
- kozuka6 : 小塚フォント (Pr6 版) の単ウエイト使用。
- kozuka6n : 小塚フォント (Pr6n 版) の単ウエイト使用。
- hiragino : ヒラギノフォント (Pro 版) の単ウエイト使用。
- ms-dx : ms-hg の別名。
- ipa-dx : ipa-hg の別名。
- hiragino-dx : hiragino-pro の別名。
- moga-mobo : moga の別名。 ※ pxchfon 互換用。

^{*1} fontspec では 3 ウエイト以上の設定ができない。

2.2 サブ設定

fontspec では使用するフォントを `\newfontfamily` 命令で増やすことができる。それを利用した追加設定である。

- `hg` : Microsoft Office のフォント (HG フォント) に対応する、以下のファミリー命令が定義される。
 - `\hgmcfamily` : HGS 明朝 B、太字 =HGS 明朝 E。
 - `\hgprfamily` : HGS 創英プロレス EB
 - `\hggtfamily` : HGS ゴシック M、太字 =HGS ゴシック E。
 - `\hggufamily` : HGS 創英角ゴシック UB
 - `\hgmfamily` : HG 丸ゴシック M-PRO
 - `\hgkkfamily` : HGS 教科書体
 - `\hgksfamily` : HG 正楷書体-PRO
 - `\hggsfamily` : HGS 行書体
 - `\hgppfamily` : HGS 創英角ホップ体
- `hiraginomg` : ヒラギノの丸ゴシックを使う設定。
 - `\hmgfamily` : ヒラギノ丸ゴ Pro W4
- `mobo` : Mobo フォント (2004JIS 字形) を使う設定。
 - `\mobofamily` : Mobo フォント (2004JIS 字形)
- `mobo-90` : Mobo フォント (90 / 2000JIS 字形) を使う設定。
 - `\mobofamily` : Mobo フォント (90 / 2000JIS 字形)
- `maruberi` : マルベリフォントを使う設定。
 - `\mmfamily` : モトヤ L マルベリ 3 等幅

※ fontspec では取り扱うフォントのウェイトを通常 (`\mdseries`) と太字 (`\bfseries`) の 2 つに制限している。多くの OS での扱いに合わせているようである。

2.3 他オプション

- `oneweight` : 複数ウェイト用のメイン設定を単ウェイトとして用いる。
※ `pxchfon` の説明書において `\setminchofont` と `\setgothicfont` で設定されているウェイトのフォントが用いられる。
- `prop` : プロポーションアル幅のフォントを用いる。例えば、「IPA 明朝」の代わりに「IPA P 明朝」、「HGS 行書体」の代わりに「HGP 行書体」を指定する。既定で用いるのは等幅のフォントだが、「欧文のみプロポーションアル」の変種 (HG フォントの場合「HGS ~」名称のもの) がある場合はそれを優先させている。
※ `zxjatype` を用いる場合は、和文は等幅フォントを用いることが前提なので、このオプションは指定できない (エラーになる)。
- `scale=(実数)` : スケール値 (fontspec の `Scale` 属性の値)。既定値は、`BXjscls` の文書クラスおよび `zxjatype` パッケージで指定されている場合はその値、なければ 1 となる。

- `feature={属性リスト}`: このパッケージで指定されるフォント全体に通用する `fontspec` の属性の指定。